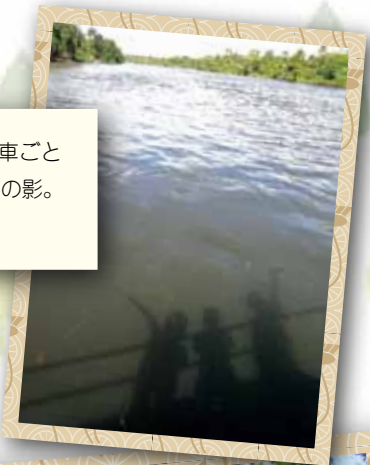


ブラジルで 見たこと 感じたこと

- ▶ ジャングルを4時間走行、途中車ごと乗船。アマゾン川の川面に映る私たちの影。
- 【松本】



- ▶ 実際に見て聞いて触って、感動したアグロフォレストリー。でも、立場によって、見る角度によって、思いは違うということが印象的だった。これぞまさしく“多文化共生”につながる考え方もかもしれない。【永井】



- ◀ ベレンからトメアスに移動する途中、田舎のレストランでトイレを借りた時、トイレ前に日本の農機具「唐箕（とうみ）」を発見。日本ではお米の選別に使うが、胡椒の選別をする時に使うものだという。日本人が作った物がブラジルの農業に浸透していると思うと、とても感動した。【宮本】

- ▶ トメアスに日系人のお墓。日本の反対側に、日本を思いながら必死に生きてきた人々のことを子どもたちに伝えたい。【藤原】



- ◀ 日系おばあちゃんの手作りの煮物。たけのこの代わりに椰子の芯が炊かれている。移民の方々は、代替のものを工夫して、日本を思い出しておられたのだろうか。ここには懐かしい日本が残っており、現地で信頼を受けしっかりと根付いた日本人の力強い姿があった。【西田】

- ▶ まさにコンクリートジャングル。ワールドカップやオリンピックに向けて経済発展を遂げる反面、高層ビルの裏にはファベラのような貧困街が多く残る。【山本】



- ◀ 落書き。格差。低所得者向け団地。都市の急速な発展と、劣悪な住環境。【中西】

- ▶ 発展と影
- サンパウロは想像以上に大都会であった。また、環境に配慮しているのか、町中には多くのごみ捨て場があった。しかし、ファベラでは、ごみ捨て場の形が中心部とは違っていった。ファベラはブラジル人でも避ける地域である。街中でも路上パフォーマーや物乞いも多数見た。フリーフィングでもうかがったが、発展の影で負の部分を感じることができた。
- 【原田】



- ▶ サンパウロの公園でサッカーをしている少年たち。思春期から18歳の犯罪者が一番多いため、サッカーの交流は警察官に止められる。【酒井】



- ◀ 子どもの独立と自立を目指す教育を実践されている越知先生(左)。先生の揺るぎない信念とモンテッソリ教育法について深く知りたい。【武田】